

# おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—すぐに会いたくなりました—

NO. 89



誰でも、居心地の良さって、そこで『自分の何かが認められている感覚』を持っていて感じるものかなと思います。「ここがおかしい」「ここが足りない」と言われ続けたら、自分からやってみようと、なかなかないものです。ちゃんと？できなくても、しっかり？できなくても、「OK、いいぞ、頑張ってる」と言われると、もう一回やってみようかな、って思えるものですよ。

先月から運動会行脚が、あんずでは始まっています。中学校から始まり、小学校、幼稚園保育所へと、すべての場所には伺えないのですが、お邪魔させていただいています。見学させていただき、本当にありがとうございます。たくさんの感動を持ち帰らせていただいています。

その日の晴れの舞台のその場面を見ていると、目の前のパフォーマンスの後ろにある、今日までの軌跡が見えてきます。子どもによって、気になること、嫌なこと、避けたいことがあるのが行事です。いつもと違うことがたくさんあって、あれこれやるのがたくさんだし、いつもと違う指示も多くて、こんがらがると、「あれを着て、これを付けて」って言われるし。「え、裸足？ やだよ！」「いつも“靴を履きなさい”って言ってるじゃないか」。それに、練習が佳境に入ってくると自由な時間が削られることもあり、ガソリン補給の時間が減ってしまいます。「当日は、知らない人がたくさんいるんだって？」「そんな場面練習していないよ！」…子どもの声が聞こえてきます。

でも、みんな楽しそうにしていました。盛り上がる風を背に受けて、笑顔のテンションも上がっていました。なんででしょう？

先生方には、日々話しあいながら、全体とのバランスを考え考え、微調整しながら取り組んできたものがあります。そして、その子の身の丈に合わせた OK ポイントを見つけたのだと思います。それも、「できないから、このくらいにしよう」ではなく、「このくらいなら楽しめる」「ここから始めればその気になれる」「いつもの力は発揮してほしいし、“一緒”も味わってほしい」といった思いや願いが、当日の子どもの姿にも表れているのだと思います。素晴らしい軌跡です。取り組み心地がよくなれば、繰り返しの練習も楽しめるようになります。そして子どもは、気持ちよく背伸びをし始めます。

これって、普段の子どもへの関わりにも当てはまりますね。できないところに着目して引っ張り上げれば、お互い手が痛くなります。「それじゃあダメだ」「まだ足りない」と突き付けられてばかりでは、子どもは今を否定され続けることになります。でも、「ここまでできるんだね」「このくらいなら楽しめるんだね」から始めれば、たくさん OK を出しながら進めていける。そして、認めてもらった感覚は、必ずや子どもからの一歩につながっていきます。

小学生の組体操。その子は裸足が嫌だから、跳ねるようにつま先を立てて走っていました。でも、笑ってたんです。そしてたくさん褒められてました。年長児リレー。その子は先生とお友達と一緒に走りました。笑ってました！「頑張ったね」って、たくさん褒められてました。運動会をやり遂げた思いは、みんなと一緒にだったと思います。

なんだか、早く子ども達に会いたくなりました。いつも会ってるのに。(R5. 10) K

